



平成28年10月7日  
RESASデータ分析フォーラム発表  
於：ホテルニューオータニイン札幌

# 広域岩見沢市に新たな観光的魅力をつくる 一滞在型観光政策一

札幌大学  
中山健一郎ゼミ



# 問題意識

地方創生

観光振興

若者着目

イノベーション  
創出

若者の雇用と地域定着

若者主体の地方創生になっていないのでは？

…若者が注目する、向かい通う、若者の雇用が生まれる地方創生を目指すべきでは

観光で雇用を創出できないのか？

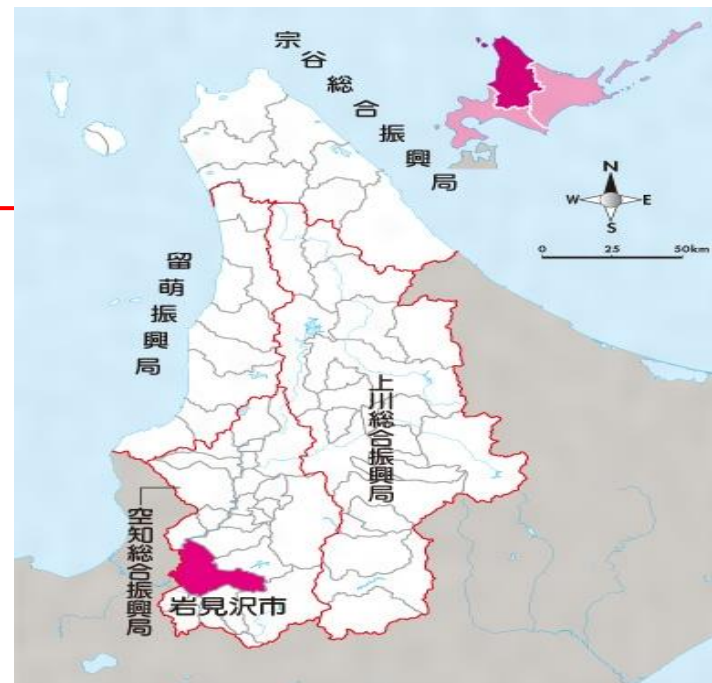
…観光振興とその工夫で都市圏の若者を地方に目を向けさせたい

都市圏に近く  
観光振興があまり進んでいない地域こそ、チャンス？

よそ者の若者が関われる地方創生が存在するのでは？

# 岩見沢に注目する理由

- ① 札幌から近い→近くて実は遠い
- ② 未開拓の観光地→認知度も低い
- ③ 市, 観光協会が観光振興に意欲的  
→産学官連携の可能性あり
- ④ 地域の若者の減少, 地域の過疎化の進展



岩見沢市位置図

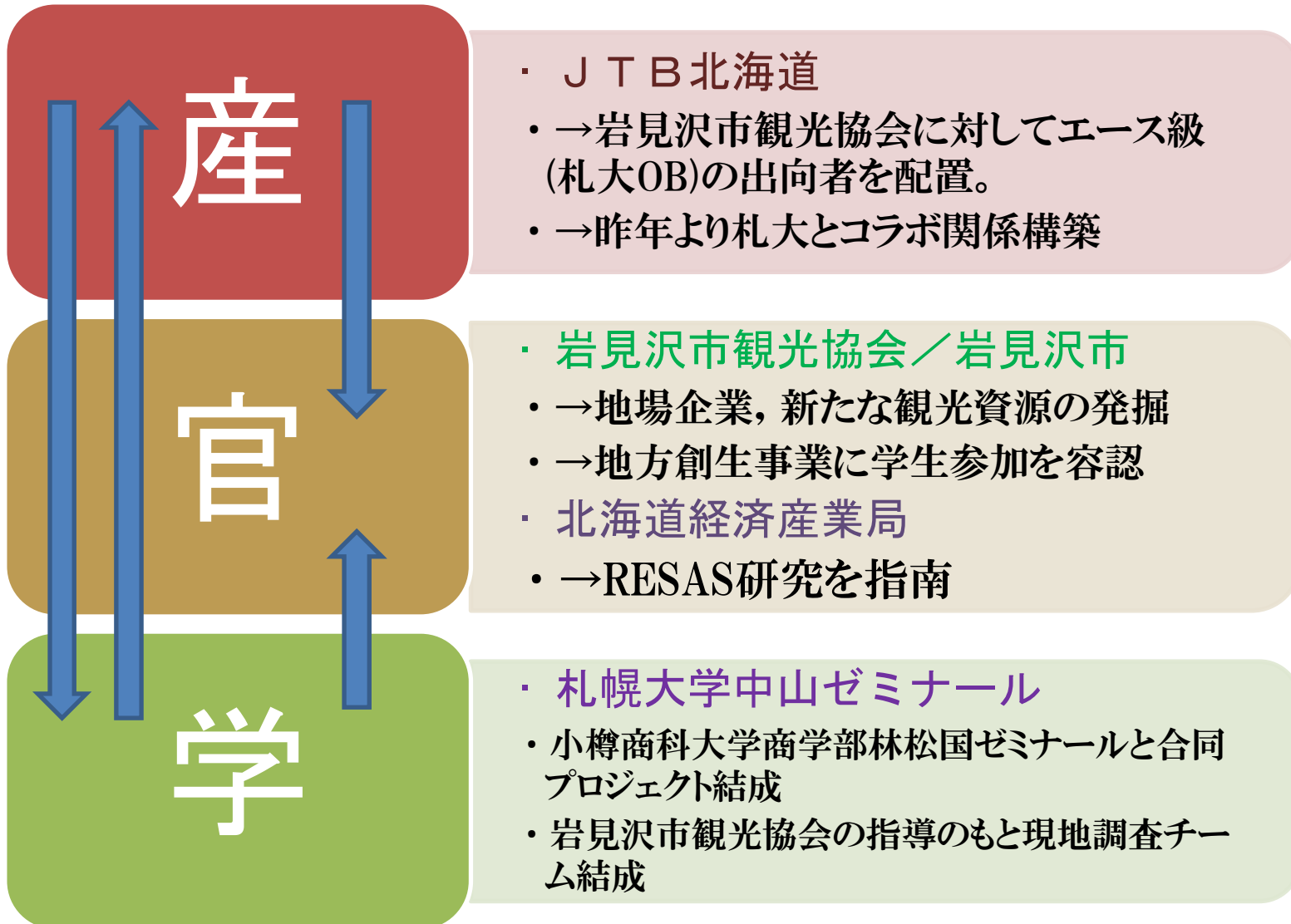
## 方法論とアプローチ

よそ者の当事者意識 + イノベーション思考 + 現地現物主義  
→ 現地訪問観察とヒヤリング調査

札幌圏の学生と連携

産官との連携

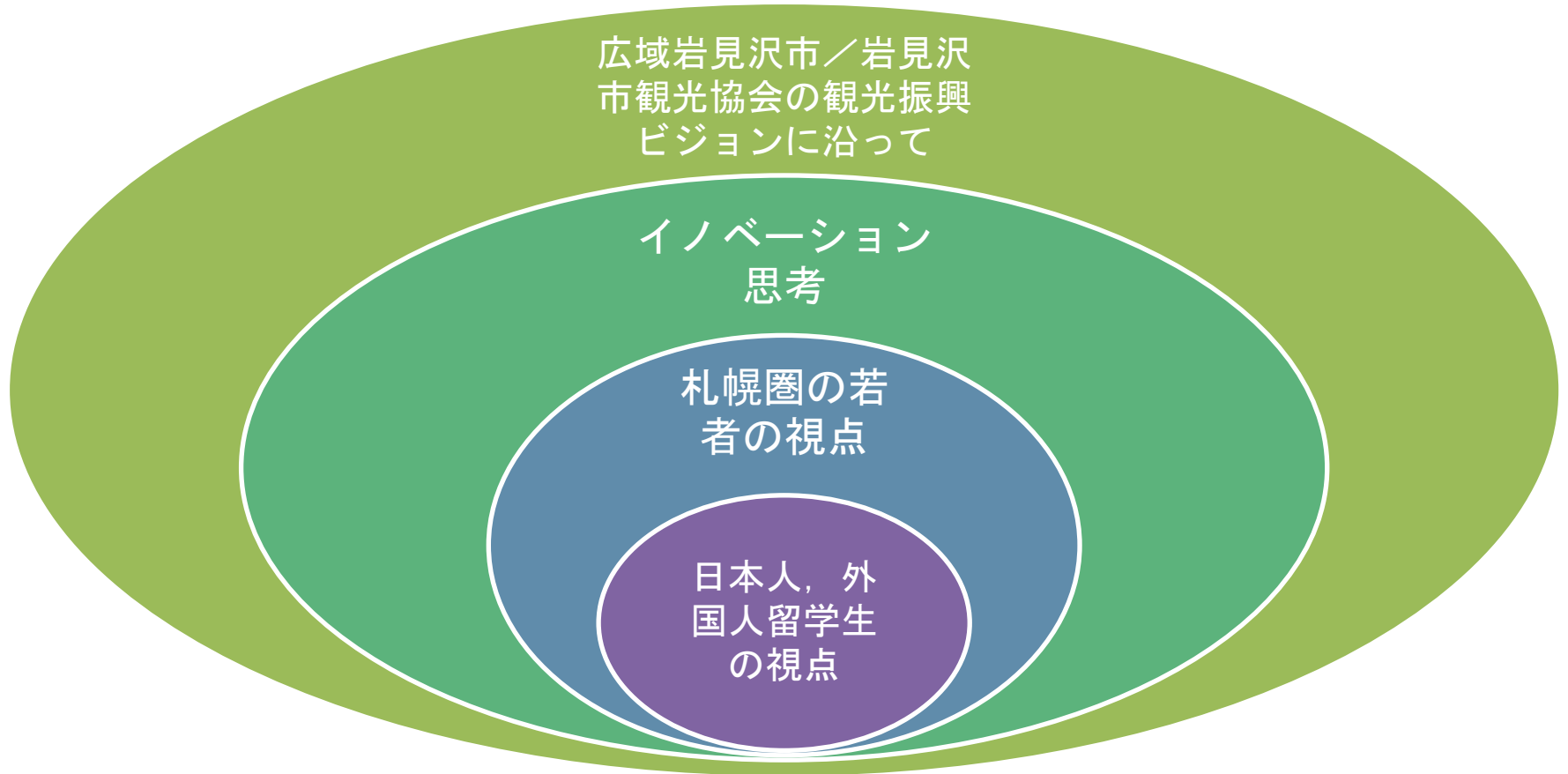
# 研究体制（産学官連携を最初から意識）



# 課題への取り組み

作業項目	時期	対応
テーマ設定	2016年4月	昨年度研究の反省と継続を確認
連携機関、組織と打ち合わせ	2016年5月	岩見沢市観光協会, JTB北海道, 小樽商科大学に連携の呼びかけ, 現地資料収集等も開始
基礎調査	2016年6～7月	現地にて地元関係者と懇談 問題点, 課題の洗い出し 北海道経済産業局よりRESAS研究指南
地域研究	2016年6～7月	RESAS研究, 過去論文等資料の検索, 分析
夏合宿企画と現地調査チームの結成	2016年7月	小樽商科大学との連携確認 テーマの共有と現地調査項目確認
夏合宿研究調査	8月22日～26日	プレ合宿の後, 各班で現地調査
現地での成果発表	8月26日	各班の調査結果と政策提言を発表

# 広域岩見沢市の観光振興の可能性 を考えるための4つの視点



※イノベーション思考＝先入観の排除＋プラス思考＋よそ者による当事者意識

※広域岩見沢市＝JR岩見沢市駅より車30分圏の移動範囲

# 広域岩見沢市の分析

① 岩見沢市の特性

② 人口動態

③ 昼夜別、季節別の滞在人口

④ 観光スポットへの集客状況推移

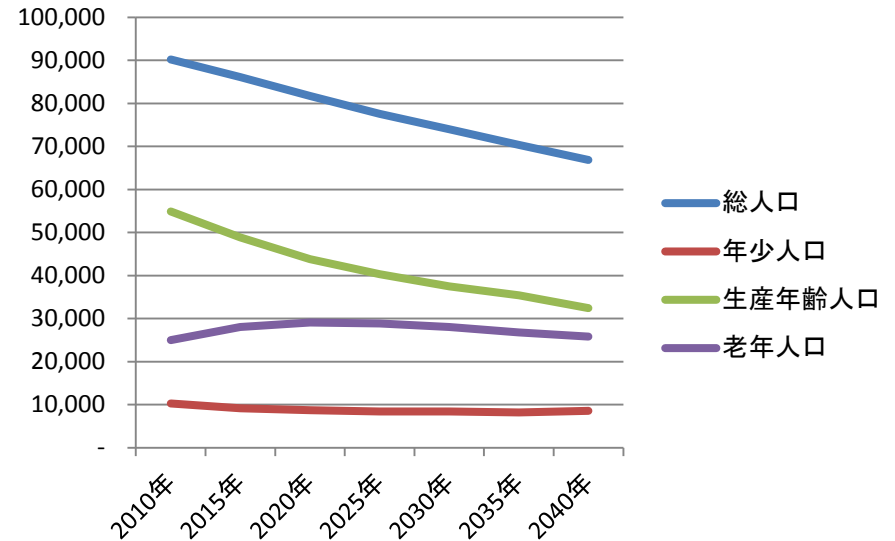
⑤ 観光振興の特性と対策

⑥ 仮説の提示



# ①岩見沢市の特性

2015年現在	男	女	計
日本人	39,434	44,826	84,246
外国人	43	67	110
合計	39,477	44,893	84,370
0歳以上14歳以下	4,601	4,423	9,024
15歳以上64歳以下	23,268	24,325	47,593
65歳以上	11,608	16,145	27,753



2010年時推計予測よりも2015年の実数人口は1728人減少

◆10代後半から20代前半の若い世代の転出超過が多い。

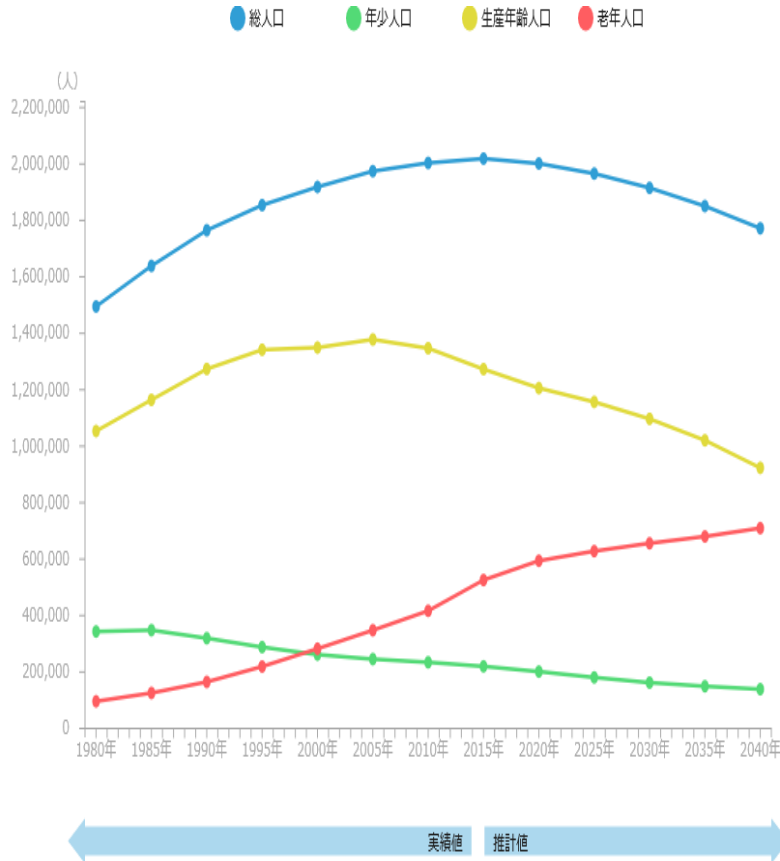
…特に、札幌市への転出が4割強を占め、そのほか首都圏、江別市や千歳市、北広島市、恵庭市等の道央圏へ転出。

◆地元の大学（北海道教育大学岩見沢校）は毎年120人以上が卒業  
岩見沢市内への就職は極わずか。市内の高校においても卒業生の多くが岩見沢市以外で就職している。（『岩見沢市総合戦略』 p.2より）

若者人口の流出、若者の地元就業が大きな問題



## ②岩見沢市の人口動態



### 【分析1】

札幌と岩見沢の人口動態のデータを合算  
→それでも若者人口の減少は避けられない

### 【分析2】

特に農業地区〔北村地区【旧北村】  
栗沢地区【旧栗沢】の人口減少が深刻。  
※北村地区，栗沢地区は，2006年（平成18年）  
の3市町村合併によるもの

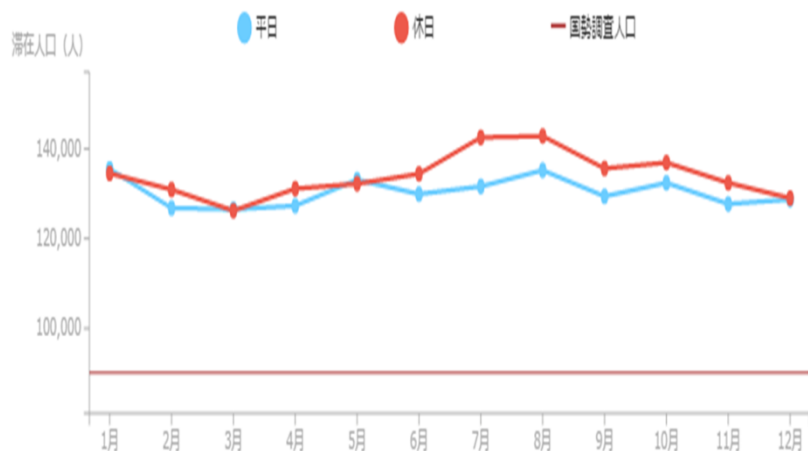


岩見沢から札幌に転出した若者層が地元【岩見沢】回帰，就業をしていないといえる。

### ③昼夜別滞在人口，季節別滞在人口

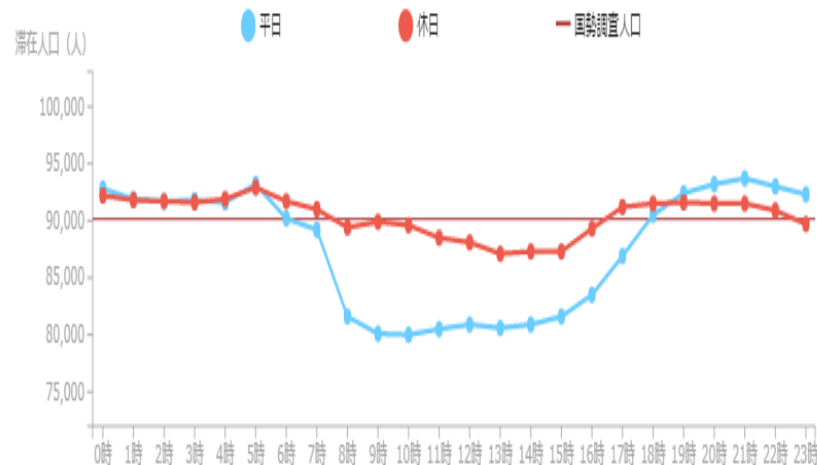
滞在人口月別推移

北海道岩見沢市 2015年  
(国勢調査人口：90,145人)



滞在人口時間別推移

北海道岩見沢市 2015年  
(国勢調査人口：90,145人)



#### 【分析結果】

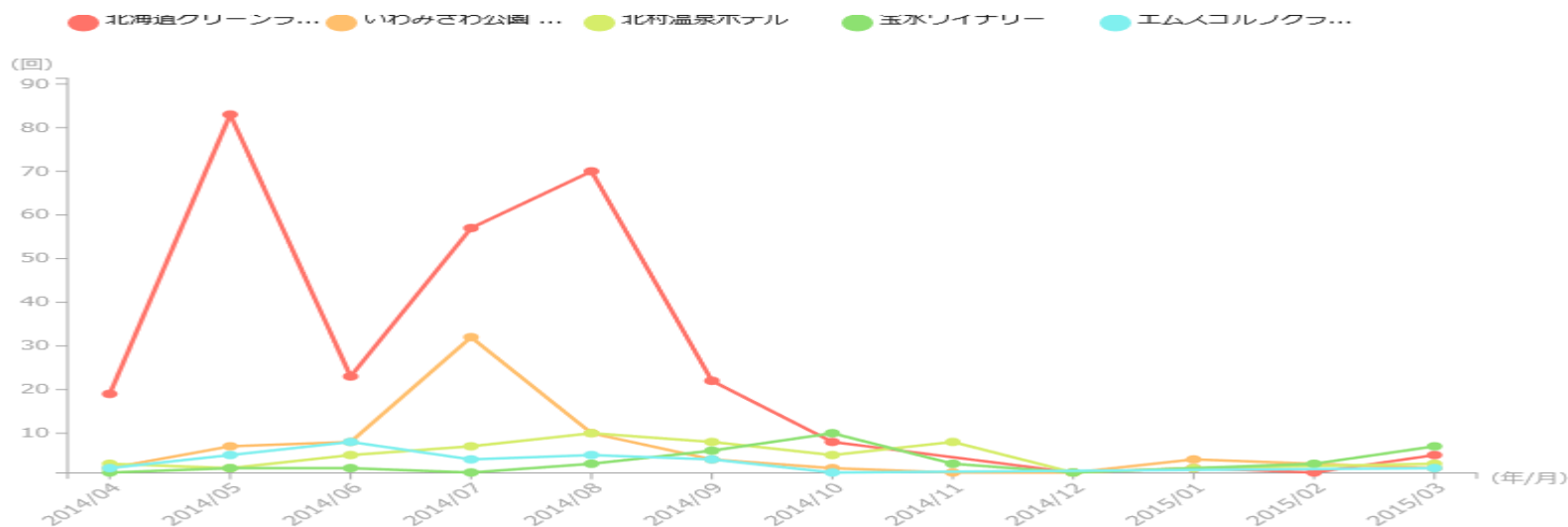
滞在人口月別推移・・・①夏季増加，冬季減少。

②休日人口が平日人口をやや上回る。

1.休日における観光ニーズがある

2.市外通勤者が相対的に多い，観光地として未成熟な部分がある

## ④観光スポットへの集客状況推移



### 【観光スポットの知名度分析の結果】

…北海道グリーンランドが突出

①夏季好調, 冬季低調

②北海道グリーンランド頼みの観光客集客

③日帰り観光。

→既存の観光スポットの魅力向上, 魅力ある新規観光スポットの開発, 通年で観光客を呼び込む観光魅力が必要。

### 強み

#### 豊富な観光資源

(観光施設, 歴史遺産, 農産物, 自然)

#### 地元で大学…若者

(北海道教育大学…芸術, スポーツ)

#### 札幌大都市圏に隣接

(札幌からの観光客に期待)

### 弱み

観光に関する情報の発信力

観光資源の認知度が弱い

観光資源同士の関係が弱い

冬季の観光客が少ない

### 機会

温泉, 花めぐり

歴史遺産

地域の食材の活用

感心の高さ

### 脅威

全道的に観光客減少

観光に対する消費額も減少

観光振興に取り組む自治体の増加

【岩見沢市の課題解決の方向性】 → 残念ながら具体策は見えてこない

① 豊富な観光資源を活かした取組

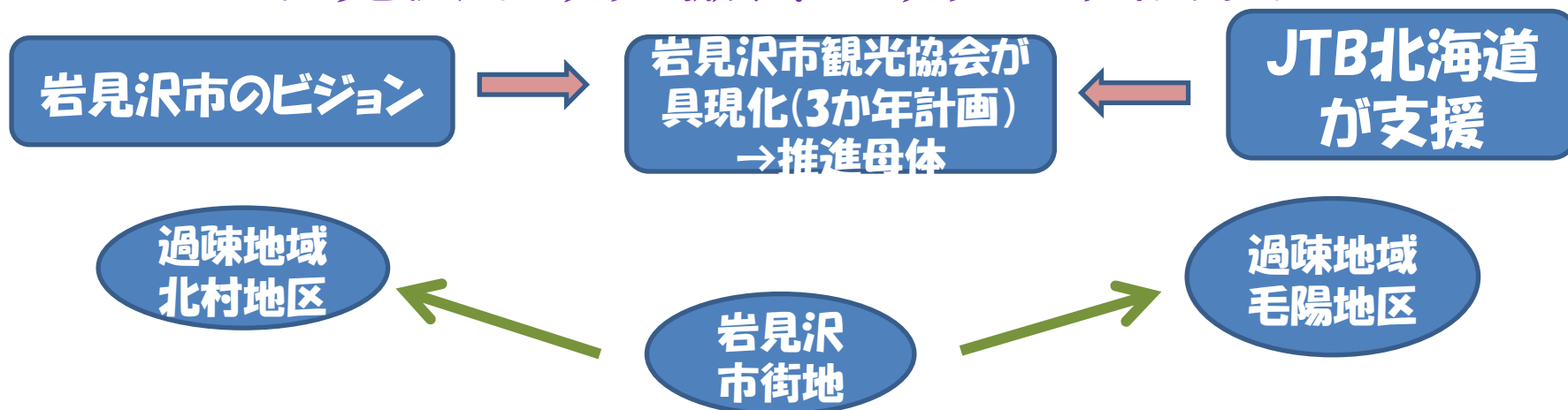
→ 市内巡りツアー開催, 特産品の開発・販売等

② 市内外に観光情報を発信 → HPの活用, 情報リスト作成等

③ 観光施設, 関係者の連携

→ 連携組織構築 / 観光協会中心とする推進体制強化

# 岩見沢市観光協会の観光振興計画



①アグリツーリズム戦略	食, ワイン等を提供する商品開発
②ワインツーリズム戦略	ワイナリーやヴィンヤード巡り
③スノー体験プログラム	雪遊び体験商品開発
④ヒストリーツーリズム	炭鉱跡や炭山等の歴史遺産を活用した商品開発
⑤エンターテインメントツーリズム	既存の音楽ライブ等を有効活用した新たなエンターテインメント及びイベント商品開発

- ① 過疎地域が重点地区
- ② 年間通じたイベントや企画を重視
- ③ 既存の設備や資源を活用した観光振興に特徴

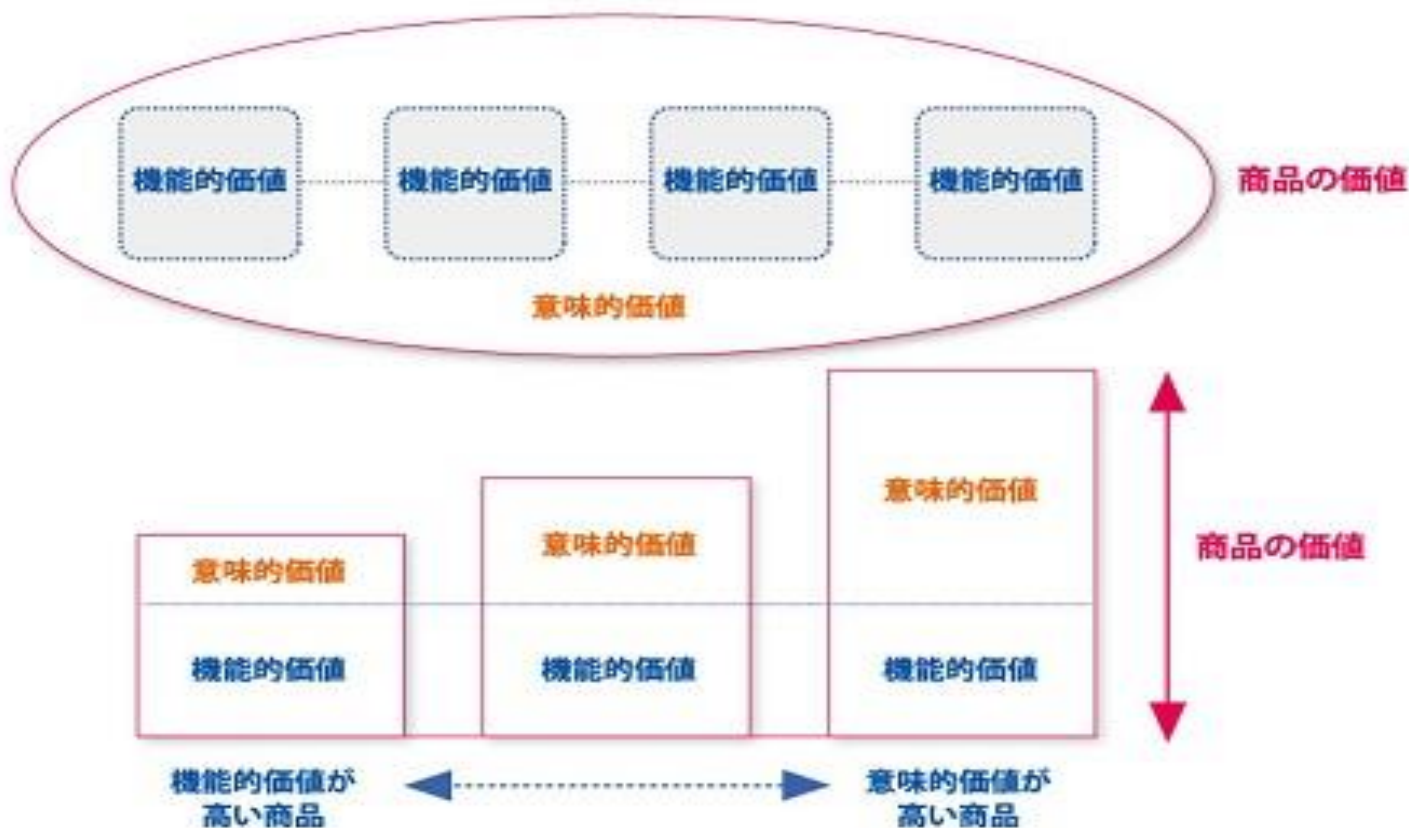
**1つの疑問・・・果たして若者を引き付け、雇用創出につながる観光振興になるだろうか？**

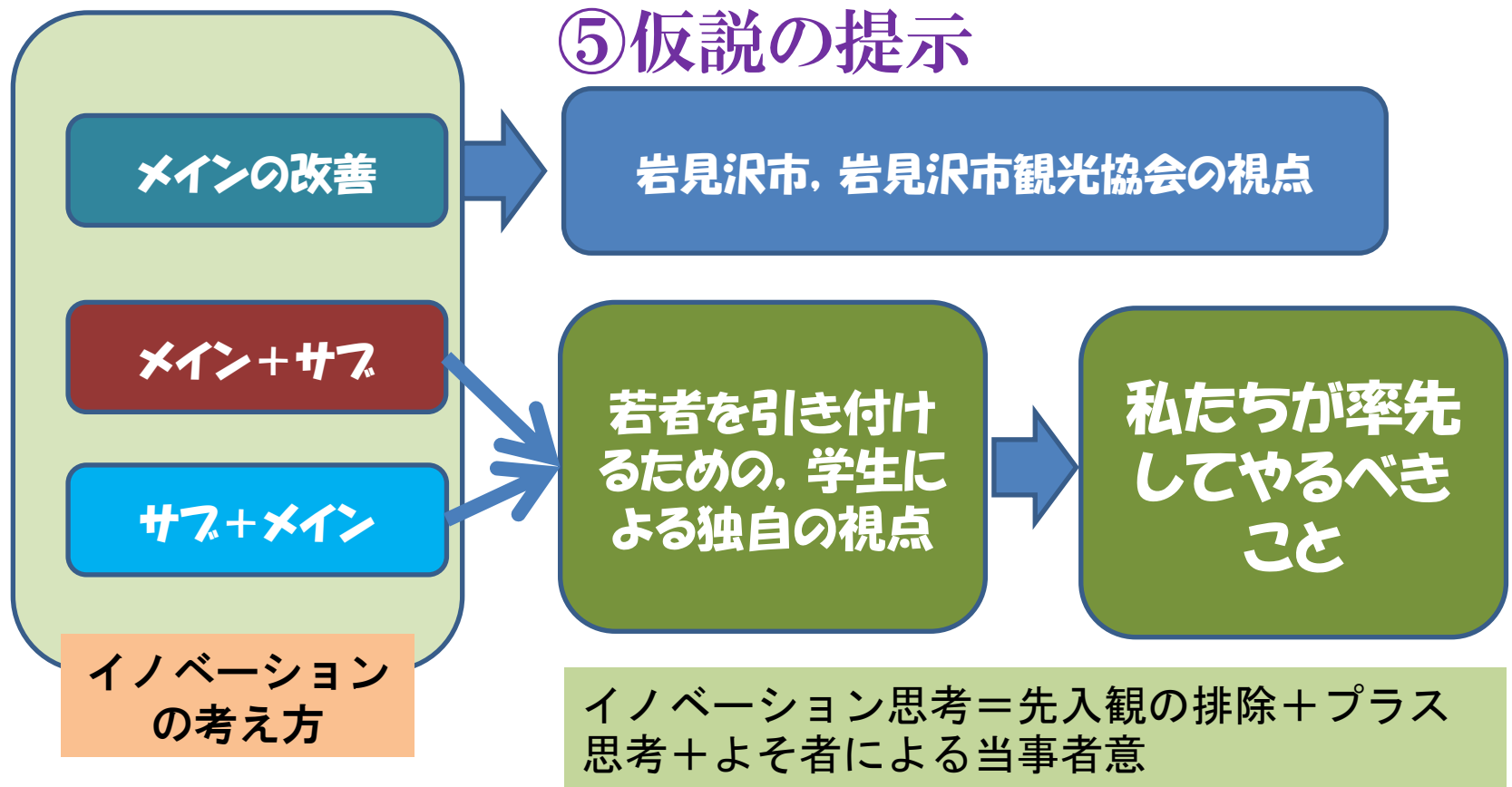
仮説：

**意味的価値**の大きさにより商品価値，観光価値を変えることができるのでは？（神戸大学：延岡健太郎先生の理論の応用）

図1 商品の価値＝機能的価値＋意味的価値

意味的価値とは、個別の顧客の中で決められる価値





現地調査は,

- ①「拠点活用, ルート開拓, ブランド化」から攻める
- ②もっとも集客力のある北海道グリーンランドや岩見沢駅にもっと注目する

# 夏合宿現地調査結果

北村地区, 毛陽地区, 岩見沢市内の3拠点を  
2大学7チームで調査

	調査観点	チーム編成	問題意義
1	拠点活用策	A班(札大,商大混成) C班(商大) E班(札大)	滞在型観光の可能性を探る(新発想に基づく観光開発)
2	ルート開拓	B班(札大 ※留学生含む) D班(札大)	既存観光資源を活用したツアーの可能性等の検証
3	ブランド化	F班(札大) G班(商大 ※留学生含む)	玄関口のイメージアップ化

メイプルロッジ



リトルロックヒルズ





# 政策提言(1) 拠点活用策(北海道グリーンランド)

## 小改善

## さらなる魅力開発

- 冬にも夏のジョインアライブに匹敵する大型イベントを導入すべき
- ライトアップや巨大観覧車から見える見晴らしにさらなる付加価値を。

## メイン+サブ

## ルスツに学ぶ

- シャトルバスの導入, 無料送迎バスを導入, バスの割引制度を導入
- 滞在型観光の促進のため, ホテルを建設する

## サブ+メイン

## 新発想で考える

- 北海道ディズニーランドの併設
- 北海道ジブリワールドの併設



# 政策提言(2) 拠点活用・ブランド化策(北村地区)

## 小改善

## さらなる魅力開発

- ・アグリツーリズムを活性化させるために生産者の顔の見える工夫、ファームステイに依る農業体験、旧小学校宿泊施設「ぱる」の活用。

## メイン+サブ

## 最先端技術を取り入れる

- ・小学生の夏休みの滞在型自由研究(比較的初期投資の少ないドローンを活用した体験実習など)

## サブ+メイン

## 新発想で考える

- ・田んぼアートを導入。青森県で話題になって
- ・いる田んぼアートを導入する。
- ・ドローンによって上空から全容を標榜出来る
- ・ようにする。



# 政策提言(3) ルート開拓・ブランド化策(市内地区)

## 小改善

## さらなる魅力開発

- 観光都市としての姿勢を明確化する
- 岩見沢市の玄関口の整備(駅の認知度向上, 案内掲示, 3か国対応の翻訳等)

## メイン+サブ

## ハンデを逆手にとる

- シャッターの目立つ商店街をプロジェクションマッピングやローカル性の強い商品の開発・販売によって活性化させる。
- 安価なミニバス導入→観光拠点のリンクを図る

## サブ+メイン

## 新発想で考える

- 地元住民に観光都市としての意識を植え付ける。
- 地域の観光客に対するウェルカム姿勢を出す。

# 今後の課題探索

◆岩見沢市＋岩見沢市観光協会の進める取り組みの検証

→出来る範囲や出来るところからではなく、サブ＋メインのようなダイナミックなイノベーションが求められているのでは？

若者層のアイデアと  
求める岩見沢のイメージ

◆札幌圏学生へのアンケート実施(継続実施)

札幌圏の若者、学生の評価の検証

# サブ+メインの可能性を探る取り組み例

## 北海道ディズニーランド, 北海道ジブリワールドへの期待

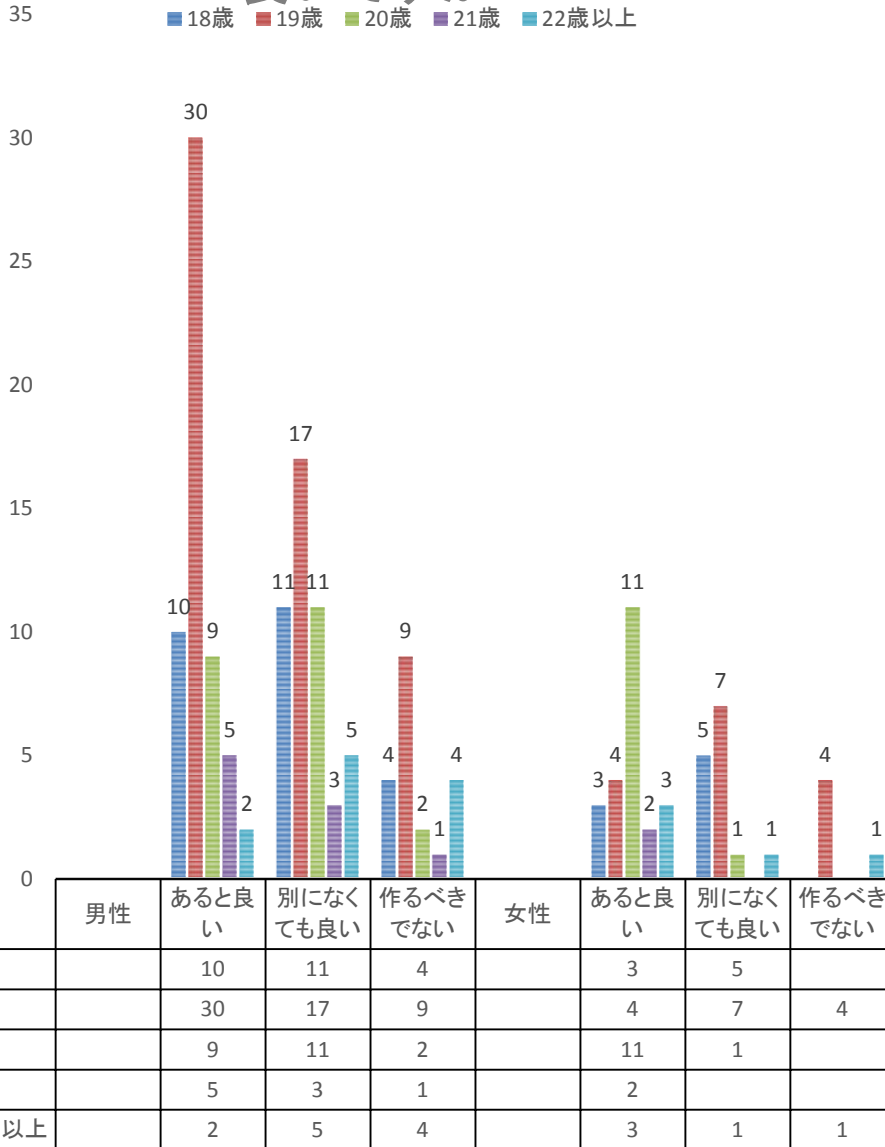
札幌圏学生への第1次アンケート調査(対象200名)の実施結果の抜粋  
(2016年11月実施)

- ①北海道グリーンランドよりもルスツリゾートの方が距離的に近いと感じる学生多数。(半数近くがルスツリゾートへの親近感)
- ②北海道グリーンランドの知名度は突出して高い
- ③他の観光地に対するイメージが弱い(知名度は低い)
- ④あれば, 是非行きたい(北海道ジブリワールドの方が現実的)  
…男性よりも女性の支持が絶大
- ⑤もっと自然を活かしたアトラクションが必要
- ⑥小改善提案, メイン+サブの提案は大いに賛成  
→札幌からの直行バスのサービスの必要性が最も強い

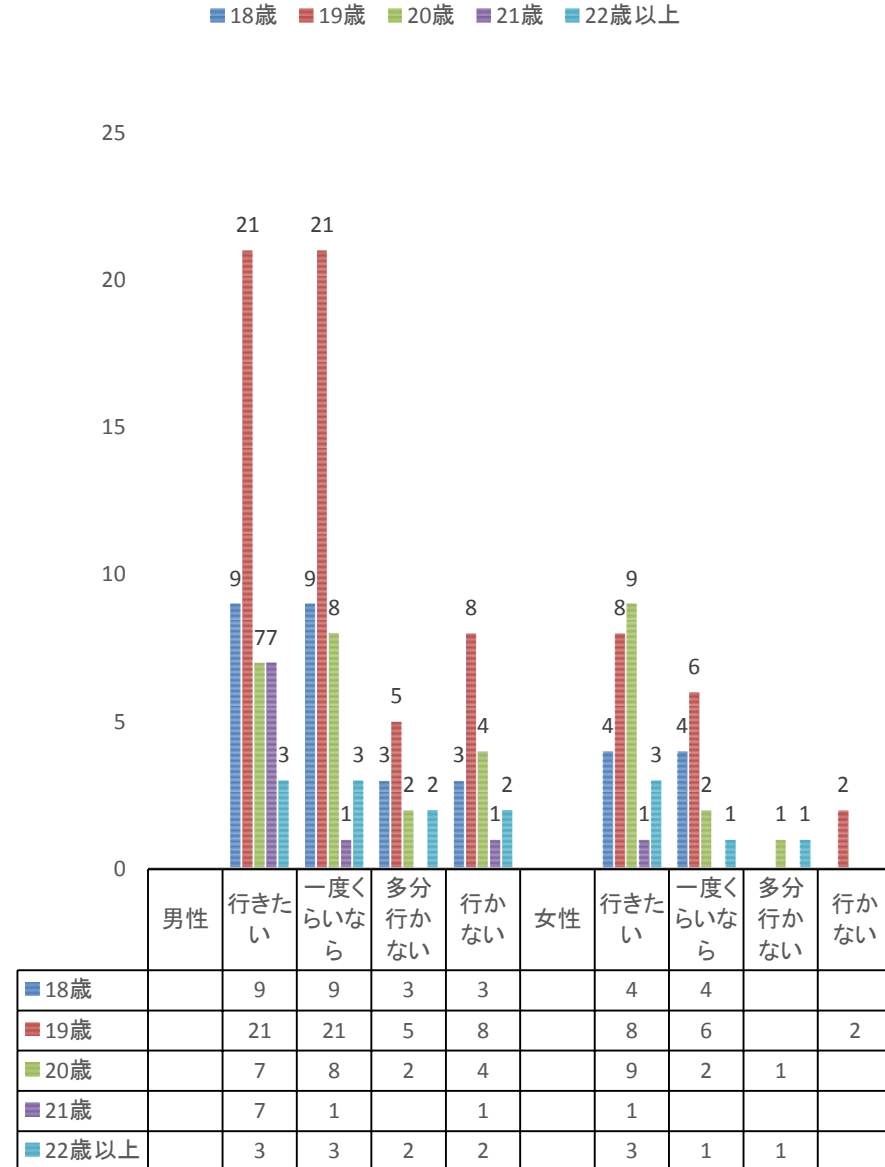
知名度の高い北海道グリーンランドから観光的付加価値を  
高めるべきであるとの結果

# アンケート集計結果①(無回答も含む)

## 北海道にディズニーランドがあると 良いですか？



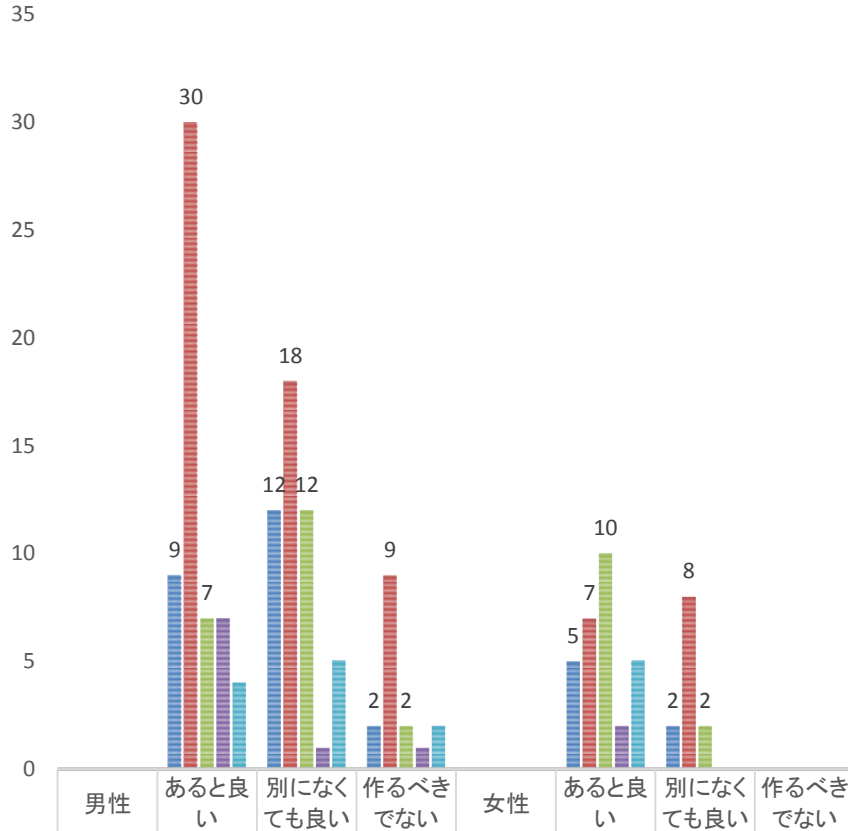
## 岩見沢に出来たら行きますか？



# アンケート集計結果②(無回答も含む)

## 北海道にジブリワールドがあると良いですか？

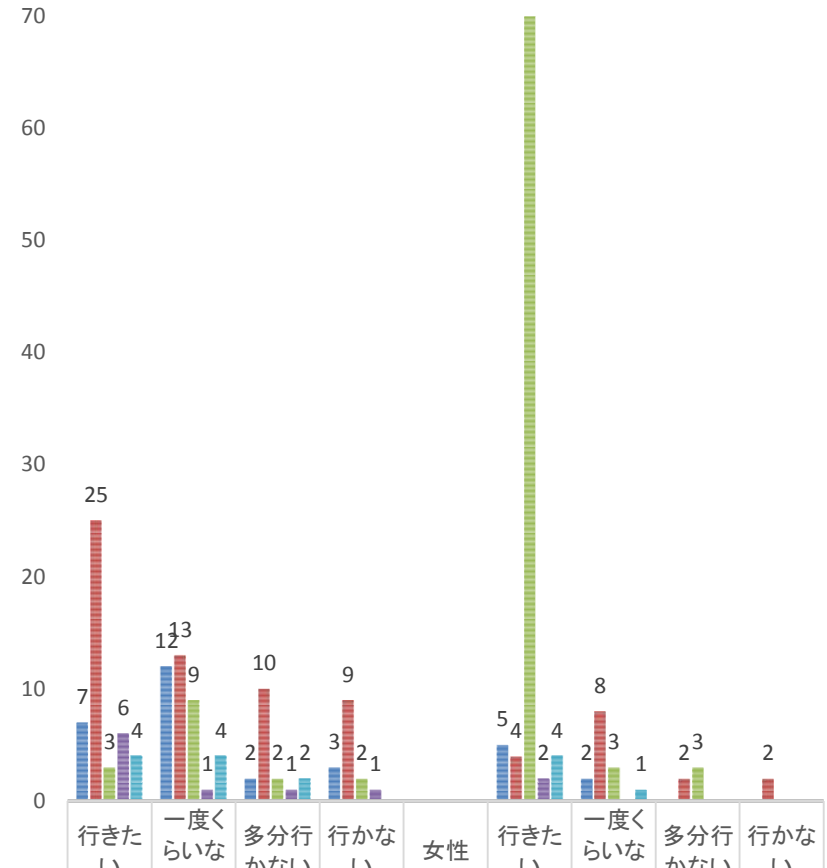
■ 18歳 ■ 19歳 ■ 20歳 ■ 21歳 ■ 22歳以上



■ 18歳		9	12	2		5	2	
■ 19歳		30	18	9		7	8	
■ 20歳		7	12	2		10	2	
■ 21歳		7	1	1		2		
■ 22歳以上		4	5	2		5		

## 岩見沢に出来たら行きますか？

■ 18歳 ■ 19歳 ■ 20歳 ■ 21歳 ■ 22歳以上



■ 18歳	7	12	2	3		5	2			
■ 19歳	25	13	10	9		4	8	2	2	2
■ 20歳	3	9	2	2		71	3	3		
■ 21歳	6	1	1	1		2				
■ 22歳以上	4	4	2			4	1			

# 今後の展開

◆政策提案の現実化と実践を図る(さらなる連携模索)

→現地経営者との懇談会を計画・実施

方法)地場の観光振興に関心の高い金融機関を巻き込む

→事業化できるものから事業化計画(評価)に着手

→北海道銀行や空知信用金庫が協力に名乗り

◆翻訳, 通訳, PR動画, PRHPの提案(継続実施)